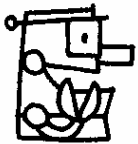


たき火をよく燃やすには、どうすればいいの



かわいた木を選び、燃えている部分に、空気（酸素）
がたくさん送られるようにするといいのさ。

燃え続けるには、十分な熱と酸素が必要

木が燃えると、まず、火で熱せられて木の成分が分解され、燃える気体が出てきます。そして、その気体が空気中の酸素と急激きゅうげきに結びつき、そのとき熱や光が出ます（ほのおが出る）。この出てくる熱で、さらに燃える気体が出てきて、木は燃え続けます。

たき火の最初は、新聞紙などに火をつける

たき火をするとき、いきなりマッチの火を木の枝に近づけても、なかなか火はつきません。マッチの火では、熱がたりず、枝は燃え出さないのです。

まず、ねじった新聞紙などの燃えやすい物に火をつけ、大きな火にしてから、その上に細い枝などをのせます。枝が燃え出し、火のいきおいが強くなったら、太い木を、1本ずつのまわりに空間ができるようにうまく重ねて、のせていきます。木を、すき間なく火の上のにのせると、燃えている部分に空気（酸素）が回ってこないため、火は消えてしまいます。

木がぬれていたりすると、なかなか木が熱くならず、やはり燃える気体が出にくいので、火はうまく燃えません。しめった木は、あらかじめ、日に当ててかわかしてから、使いましょう。



ねじった紙に火をつける



小枝をのせる



たき木を重ねる



悪いたき木の重ね方